

iシェアーズ 月次ETF*資金流入レポート



渡邊 雅史
ブラックロック・ジャパン株式会社
iシェアーズ事業部
ストラテジスト

ETFは世界中で約5000本が上場され、機関投資家・個人投資家の双方に活用されています。その規模は2兆ドル（約200兆円）を超えています。

ETFは株式市場で株式のように取引される一方で、上場「投資信託」であり、投資信託としての資金の出入りが日々発生**しています。世界中で様々な投資家が利用しているETFの資金流入は、世界の投資家の動向を探る上でも有用な情報になると考えられます。

当レポートでは、世界のETFの資金流入の状況をまとめ、それらから見えてくる世界の投資家動向についてご紹介していきます。

*ETF(Exchange Traded Fund)のほか、ETN(Exchange Traded Note)、ETC(Exchange Traded Commodity)、ETI(Exchange Traded Instrument)等の上場金融商品を含みます。
**ETF独自の「設定／交換」と呼ばれる現物バスケットと受益権の受け渡しによりETFへの資金流入が発生します。（すべてのETFが現物での設定／交換を行うわけではありません）

2013年12月のETF資金流入 ～量的緩和縮小決定後も先進国株式へ～

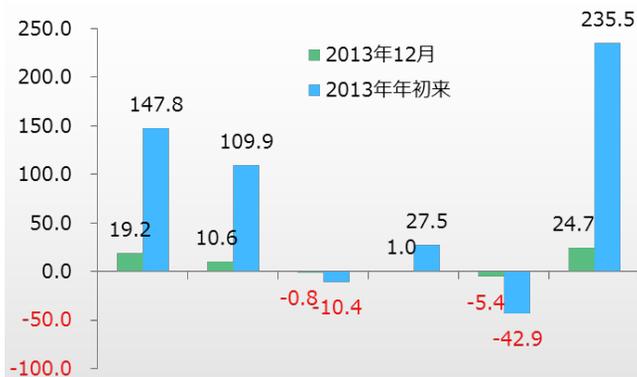
2013年12月の資金フローは、247億ドル（約2.5兆円）の流入となりました。

Fed（米国連邦準備制度）による量的金融緩和の縮小（テーパリング）が開始されたことは、市場では不透明感の解消と受け止められ、投資家のリスク選好の姿勢が高まった結果、株式のETFへの資金流入が目立ちました。但し、株式ETFの流入先はそのほとんどが先進国の株式のETFで、新興国株式ETFへのもではありませんでした。米国株へは192億ドルの流入がありましたが、149億ドルが大型株ETFへの流入でした。さらに、そのうちの93億ドルはFedがテーパリングを発表した後に流入したものです。

一方、米国の10年金利が3%台に上昇した中で、債券のETFへの資金流入は非常に乏しく、わずか10億ドルにとどまりました。ハイイールド債券のETFに対してもほとんど資金の動きが無かったことから、12月は投資家がかなり株式を選好した月だったと考えられます。

また、金利上昇は、金ETC (Exchange Traded Commodities)からの流出をさらに継続させており、金のETCからの資金流出は、12月も-36億ドルとなりました。

【世界のETFの資金流入（十億ドル）】

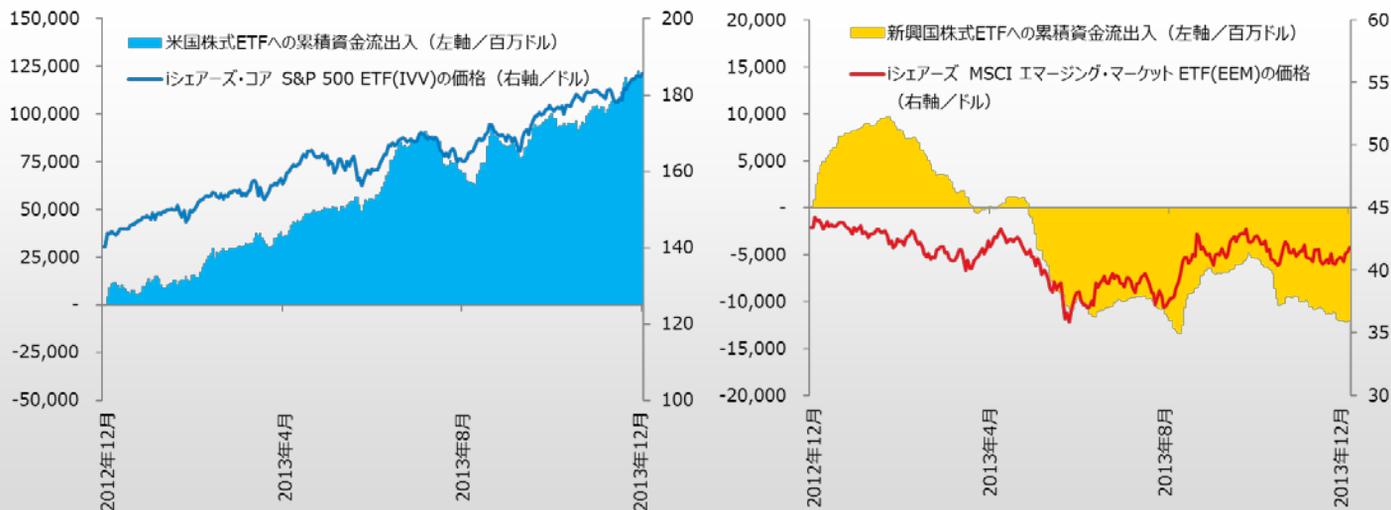


出所：ETP Landscape Dec 2013, BlackRock

当資料は情報提供を目的として作成されたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的とするものではありません。当資料は当社が信頼できると判断した資料・データ等により作成しましたが、その正確性および完全性について保証するものではありません。また、当資料中の各種情報は過去のものであり、今後の運用成果を保証するものではなく、当資料を利用したことによって生じた損失等について、弊社はその責任を負うものではありません。さらに、本資料に記載された市況や見通しは作成日現在の当社の見解であり、今後の経済動向や市場環境の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。

ETFから見る世界の投資家動向 ～2013年の資金フローを振り返る（株式編）～

【*米国株ETFと新興国株ETFへの累積資金流入と価格の動き】



*当該資産を投資対象としている全てのiShares及び10億ドル以上の残高のあるその他のETF（レバレッジ・インバース型を除く）についてブラックロック・ジャパンがデータを集計したものと

出所：ブラックロック・ジャパン、ブルームバーグ

2013年の株式ETFへの資金流入は先進国（中でも米国）と新興国で非常に対照的となりました。米国においては、前半は金融緩和による低金利が維持されたことで高配当関連の株式ETFなどへの資金流入が目立ちました。その後は量的緩和の縮小（テーパリング）の議論によって一時的に資金流出となる場面も見られたものの、緩和策縮小ペースは経済環境に配慮しながらかなり緩やかなものになるだろうとの見方から、継続的に米国株には資金が流入しました。ただし、流入対象は高配当株から小型株などの成長性重視のETFに切り替わりました。

一方で、新興国の株式については、年初に若干積みあがったものの、それ以降は中国・ブラジルの景気への懸念、および米国の量的緩和縮小に伴う新興国（特に経常収支赤字国）からの米国への資金回帰に対する懸念から、資金流出となり、そのトレンドのまま年末を迎えました。2013年は米国を中心とする先進国と新興国で、資金流入の面でも明暗がはっきりと分かれた年となりました。

ETFの主な投資リスクについて

ETFは投資元本および投資元本からの収益の確保が保証されているものではありません。連動を目標とする指数、組入れ有価証券の価格変動、金利及び外国為替の変動等の要因によりETFの価格は変動することから、投資者は損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ETFの価格が変動する要因や変動の大きさは、各商品及び各商品が連動を目標とする指数等により異なります。また、中小企業への投資では、一般に変動が大きくなります。

手数料、費用等について

【売買時の手数料】当ETFを売買する際の手数料は取扱い金融商品取引業者（証券会社）等によって定められます。詳しくは取扱会社までお問い合わせください。【保有時の費用】当ETFの保有期間中は運用管理費用等を間接的にご負担いただけます。保有時の費用の率（総経費率）は個別のETF/JDR毎によって異なり、また運用状況や保有期間等に応じて異なることからその上限額を示すことはできません。詳細は取扱い金融商品取引業者（証券会社）にてご確認ください。またiシェアーズのウェブサイト（<http://jp.ishares.com/>）にて当ETFに関する情報を開示しております。

ブラックロック・ジャパン株式会社